

<真剣味>53

2016.5.13

少しの間、パソコンの前に座ることができませんでした。でも遅くとも連休には53を出さなければと思いつつも、テーマが浮かばないし、自分の周りにはいい話もなかつたため、ここまで伸びてしましました。ただこのままズルズル出さないでいると、ずっと出せないことになると思うのでまず指を動かしてみることにしました。

指導の在り方

●学校では学級担任・副担任・学年主任・学年の先生方と一学年でもたくさんの先生方の目で生徒を見ています。また学年には学年の目標があり、個人としても目標があります。その達成のため、学習の継続はもとより、学級での係活動等を通して他人と協力する中で人としての成長にも繋げています。学習・係活動などを一生懸命取り組むことで、知らないことが分かり、係での話し合い活動では他と協力する力、話を聞く力、話す力などが身に付くはずです。学習や活動などは面倒くさいとか、ただやりたくないということでは、自分の力をひとつ不意にしてしまうように思われます。行動を起こしそれを継続していくことで、今までできなかつたことができたり、また楽しくもなったりする。そういう経験の蓄積が自信につながり、個人または集団の成長に繋がっていくように思われます。

シニアリーグの組織も同じで、チームそして個人の目標があり、その達成のために個々の差はあるにせよ多くの選手は努力し、それを継続しています。

我がチームではその具体的な指導を4名の指導者で行っています。多くはないですが、いろんな角度から選手を見ながら、連絡を密にしています。選手の特徴を踏まえ指導し、個人の向上に繋げています。それが直接チームのレベルアップにも繋がるわけです。ただ、指導者の指導がスムーズに選手に入らず、うまくいかないこともあるかもしれません。選手は何か悩み等があれば、複数の指導者の話しやすい指導者に相談し話を聞いてもらうだけでも心がスッキリし、また野球に集中できるかもしれません。だから選手の様子を良く見る指導者の正確な見取りが必要になるわけです。選手数が増え、活動場所も広がり、一人一人の負担も大きくなりました。とにかく見えない選手が無いよう、また情報を共有することが大切になってきます。 繰り返しになりますが、

選手はうまくいかないことがあると思います。でも自分で選んだ道です。そして中学校で野球をやめるわけではありません。次につなげてほしい。うまくいかないからやめた！などといわず、4名の指導者がいるわけなので、何かあれば相談してください。きれいごとではなく、自分のためにも勇気を持ってもらいたい。野球をすることが嫌なら仕方ないけど・・・。

信越大会に臨むにあたり

我がチームは参加させて頂けるわけですので、挑戦者として最後の最後まで、平常心で、やるべきことを確実にこなし、充実感ある大会にしたいと思います。

私もそうですが選手それぞれが自分の役割を確認・準備し、チームのために実行する。個人のことは一切考えない。チームのためにになることを考え、自ら行動する。

『できることを徹底しよう！～そこから何かを起こすしかない』

○守備では投手に合わせリズムをとり、低い姿勢ではじめの一歩を鋭く動く。そしてボールを捕りやすい懐までひきつける。連係プレーではOK、任した、この声が流れを変える。

○打撃では打てるストライクを積極的にトライする。ただのフライは要らない。貪欲に得点に絡んでいく。

○投手はリズム良く、自分の特徴を生かして投球し、相手打者に思い通りのスイングをさせない。

○走塁、皆で次の塁を狙う。皆で声を出し選手をバックから走らせてやろう。とにかく腹をくくってトライする。

・選手達と共に成長したい。

・長所を生かしたい。勝利だけ考え、とにかく努力を怠らず、戦い続ける。

・皆で守って、皆で攻撃する。今年は勝ててないチームだからこそ人一倍の行動力が必要。